

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1891800011		
法人名	社会福祉法人 健楽会		
事業所名	グループホームいけだ		
所在地	福井県今立郡池田町常安22-5		
自己評価作成日	平成25年 7月 9日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成25年8月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・第三者からの評価を得るために「DCM」を用いサービスの質の向上につなげている。 ・家族の方に日々の様子をお知らせするために月に1度広報を発行し郵送している。 ・楽しみの1つである食事についても、利用者の方の嗜好を聞きながら、旬の食材や外食などを取り入れている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は山々から吹きぬげる風、川のせせらぎなど豊かな自然に囲まれ、のどかな場所に立地されている。同じ敷地内に特別養護老人ホーム、生活福祉センター(冬期間池田町のひとり暮らし、高齢者世帯が過ごす施設)が併設され、年間を通して交流も行なわれている。来年4月には小規模多機能型居宅介護事業所の開所が予定されている。地域の行事に参加したり池田町内の子供達、ボランティアとのふれあひも随時行い、地域との交流や馴染みの人や場を大切にしている。職員は「認知症ケアマッピング」といった利用者の「行動」や「状態」、スタッフとの関わりを観察し、ケアの向上に活かす手法の研修を受け、実践している。利用者一人ひとりの表情、プラス面マイナス面を観察しながら利用者の状況を判断し、周辺症状への対応がされている。共用空間内での利用者職員との関わりも良く、表情も活きいきと池田なまりでの会話が飛び交い、安心して過ごせる事業所である。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の建物に入った時から職員が心がけてもらえるよう正面玄関に基本理念を掲示している。	立ち上げ時に管理者を中心に事業所独自の理念を作り、玄関や共有空間等に掲げている。理念に基づき職員各自が個人目標を設定し、写真入りで理念と共に掲示している。申し送り時や月1回のケア会議時に理念を共有し、日々のサービス場面で常に振り返るなど理念を大切にしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われるイベントや行事に参加、もしくは施設に子供達を招いている。また、買い物など極力地域に出かけて行き顔見知りの関係が継続できるよう努めている。	同じ敷地にある特別養護老人ホーム・生活福祉センター、子ども達やボランティアとの交流、事業所の納涼祭の地域からの参加、地域での敬老会等への参加で、地域とのつながりを深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々地域に出かけて行くことで、認知症があっても安心して暮らしていけることを理解してもらうよう取り組んでいる。また、納涼祭等、施設の大きな行事には地域の方を招いていつでも相談できる施設であるということに努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	福祉関係の方が集まるので、いろいろな意見が聞くことができ充実している。「エコキャップ」や「エコキャンドル」の話を聞き、できることをさせてもらうことで地域貢献に参加している。	区長、民生委員、家族代表、福祉課課長、社協局長の参加を得て2ヶ月に1回開催している。利用状況や取組みなどを報告し、委員からも積極的な意見を得て良好な関係ができています。委員が参加しやすいように日程等柔軟に対応している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	「指導監査」を受け、そこでケアプラン等の意見を求め改善に努めている。	町職員とは報告や連絡、運営に関する問題点などについて気軽に相談できる関係になっている。町職員が事業所に来られる機会が多くある。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行われていないが、月に1回程度「身体拘束」について話し合いを持っている。	併設の特別養護老人ホームと合同で身体拘束委員会を設けている。定期的に身体拘束について話し合い、意識の共有を図っている。玄関は施錠せず自由に出入りできるようにしている。職員は鍵をかけることの弊害を良く理解している事が職員とのヒアリングからも確認できた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、職員に対してストレスを与えないように職場環境の改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会において、成年後見制度や日常生活自立支援事業について理解を促した。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は必ず一緒に契約書を見ながら疑問点等を伺い説明をして納得してもらう。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回発行する広報に要望やご意見等公表しその改善についても提示している。	家族の面会時には何でも気軽に話してもらえようような関係づくりを心がけ家族と接している。家族交流会を年2回、アンケートを年1回行い、得られた意見や要望等への対応を広報誌で報告している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議において職員から意見を聞き改善できることは改善に努めている。また年に1回職員個人から意見や要望を聞き改善するよう努めている。	管理者は職員とのコミュニケーションを大切に、日々気づきや提案を受け、できる限り運営に反映している。年1回、施設長と事務長が職員と面接して意見を聞き、職員の気づきや考えを話す機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度「話す会」を設けて、職員の意見や要望を聞き、改善できることは改善している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「DCM」を取り入れることで、他人から見る良い点・悪い点を振り返り「気づき」につなげケアの質の向上や改善に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の中で研修も含め交流を深めながら、互いに質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	直接本人より要望を伺い、ケアプランに反映させている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される時に家族より要望を聞きフェースシートに記入している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ほとんどの方が在宅生活が困難な状態で入居されているため、1日でも早く生活に慣れていただくよう努力している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「自分の居場所」を築いてもらうために、できることは本人にしてもらうよう促している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回「暮らし」が見えてくるような広報を送付している。また、年2回交流会を開くことで家族との時間も大切にしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くの病院に受診すると、顔見知りの方との雑談会に発展したり、敬老会に参加することで同級生の方や近所の方が声をかけて下さるなど地域で暮らすことの大切さを支援している。	利用者の馴染みの関係を維持できるように様々な情報を把握し、墓参りや故郷訪問、敬老会への参加、外食、診療所への受診など職員が付き添い馴染みの人や場の関係を大切にしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がお互いをフォローし独立せず穏やかな生活が送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方で、在宅酸素が必要となり併設の特養に入居された時も家族の方と話し合い理解を深めた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用することで本人の希望や意志の把握に努めケアプランに反映している。	認知症ケアマッピング、センター方式(私の気持ちシート)から見えてきた部分や、日々関わりの中で利用者と関わる時間を大切に、行動や表情から汲み取り把握している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の方より今までの「暮らし」について機会がある度伺っている。また初回時には、サービス担当者等に情報をもらうようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態の把握については、介護日誌等に記載し職員が把握できるようにしている。1日の過ごし方については介護記録等で把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回程度「カンファ」を行いケアのあり方について検討している。	日々関わる職員間の気づきなどケア会議の中で充分話し合い、家族の意見を踏まえながら、具体的な介護計画を作成し、全職員が共有している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月2回程度「カンファ」を行いケアのあり方について検討している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期入所事業を開始することで、長期間の入院等により空きが出た場合は速やかに対応する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用に努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される前から受けている医療を存続できるように努めている。	本人や家族が希望する係りつけ医としている。ほとんどの利用者が池田町の診療所(協力病院)を係りつけ医としている。受診や通院は職員が同行し、結果を家族に伝えている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養と合同の勉強会において、医師や看護師から意見を求めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、家族や医療機関と連絡をとりながら状態を把握している。また医療機関よりカンファレンスの要請があった時は柔軟に対応している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期はどうしたいか本人に元気なうちから聞いている。また週末期においては家族の意見を尊重し医師と連携を図りながら安心して安楽に暮らせるよう支援している。	契約時に重度化や終末期の対応について説明し希望を聞いている。終末期と予想された時点で家族、診療所医師、職員で繰り返し話し合い、希望があれば事業所に対応する方針である。職員もそのことを理解している。医師を招いて勉強会も行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師との勉強会や消防士との救命講習を開いて緊急時に対応できるよう取り組んでいる。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防や地区の自警団の方と共に災害に対応できるよう取り組んでいる。	消防署の協力を得て、年2回併設の特別養護老人ホームと合同で実施している。地域の自警団の参加もあり、地域との協力体制を築いている。非常時用の食料、飲料水も備蓄している。夜間想定での訓練は行っていない。	夜間を想定しての避難訓練の実施も検討される事が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の基本理念である「尊厳ある暮らし」を大切にしているため、人格を傷つけないよう努めている。	利用者家族に入居時に個人情報の取扱いについて説明している。職員はケア向上委員会で理念に掲げてある「尊厳ある暮らし」について話し合い、実践している。訪問調査日の職員の態度、言葉づかい、トイレ誘導は穏やかであった。個人情報の取り扱いも適切に管理している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や自己決定ができるような関係づくりに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添えるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の方が気にとめて下さり面会時等に季節の洋服の交換をして下さっている。また、出かける際には女性の方は少しお化粧するなどおしゃれを楽しまれている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方と一緒に準備や片付けを行うことで食に対する楽しみを持ってもらう。	食材は生協のカatalogから利用者を選んでもらったり、不足分を一緒に買出しに出かけたり、準備、後片付けなど出来ることは手伝ってもらっている。利用者と職員が同じテーブルを囲んで同じものを食べ、楽しく食事が出来るよう雰囲気作りを大切にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	畑で収穫した野菜や近所の方から頂く野菜を使用し「旬」を大切にしている。水分もいつでも気軽に摂れるような工夫とおやつやの時間や就寝前の補給に配慮しながら1日1800mlを心がけている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後はうがいや歯磨き等、口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態を勘案して自立に向けた排泄に努めている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄に心がけている。失敗時にはさりげなく対応している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の重要性と野菜等の食物繊維の摂取、適度な運動を心がけてスムーズな排便に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日3人程度の入浴を実施しているが、本人の体調や意向を大切にしながら入浴できるようにしている。	入浴時間は概ね午前中としているが、希望があれば夕方でも対応できるようになっている。入浴を拒む人には無理強いせず、その気になった時点で支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に散歩やお参りなど適度な運動を促すことでほとんどの方が良眠されている。時より寝れない方は話を聞いたり、本人の希望で飲酒されるなど自宅にいた時にされていたことをすることで安眠できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が管理していることで受診時における医師との連携に役立っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭の掃除や食事の準備・後片付け等、自分にできる仕事をしてもらっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は本人の希望に添って行っている。	年間計画のほかに、気候の良いときにはその日の状況で「今から行こうか」と言って外気浴や気晴らしや地域とのふれあいも兼ね、外出支援を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少々の金銭は本人が管理されているが、本人が希望される大きなものについては、家族の方から金銭をお預かりし通帳管理している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が書ける方は自分で手紙を書いたり電話を自由にかけていたりしているが、書けない方もいつも面会に来てくださる方に御礼のハガキを出すよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩の時道端や花壇に咲いているお花を採ってきて花瓶に挿したりして彩りある生活が送れるよう工夫している。	食堂を兼ねた共用空間は広々として採光も良く、明るくソファなどが置かれ、自由に過ごせるようになっている。壁面には利用者の手作り作品、花なども飾られ、居心地よく過ごせる空間となっている。居室前の廊下にはソファが置かれ、休憩スペースが設けられている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	死角になる空間にソファを置くなどして気の休まるような配慮をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと洗面台、エアコンは施設設置。後の家具等については、家族の方にお願いし今まで使われてた物を持ってきてもらうようにしている。	居室には一人ひとりの思い出の品や家族の写真が持ち込まれ、個人の作品なども飾られ落ちついて過ごせるよう配慮されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室は目でわかるように温泉マークの暖簾をつるしたり、トイレがわかるように看板が設置してある。居室もわかるようにネームプレートを掲げてあり本人が自分で理解できるよう工夫している。		